令和6年12月31日（通巻第237号）

***ボウルズ・ジャパン　ブリテン***

　　　　　　　　　　　発行元：認定NPO法人ローンボウルズ日本　総務部

2025年の年頭の挨拶



**理事長　児島 久雄**

BJの会員と関係者の皆様，新年あけましておめでとうございます。

旧年中はBJの活動にご協力、ご提案等を頂きお礼申し上げます。

２０２４年は例年にも増しての猛暑の中を練習に励んでおられ、皆様の体調

管理に少し心配していましたが、大きなトラブルもなく新年を迎えられました。

日本選手権は雨に悩まされながらも、各地区の運営委員の方々の働きのおかげで

予定どうりに終了出来ました。あらためてお礼を申し上げます。

２０２４年もいくつかの海外大会に選手を派遣しました。

3月にはタイ・パタヤでのアジア選手権大会においては女子のトリプルズ、フォアーズ種目におい

て共に3位の銅メダルを獲得するという久々の快挙を成し遂げられました。

川本理事(LB高知UC所属)は日本レクレーション協会の令和６年度レクリエーション運動普及振興功労者賞受賞されました。若手育成にも力を入れておられ２０２４年も国際ユース大会に選手を派遣していただきました。

２０２４年は新5ヶ年計画策定プロジェクトチームを編成して、非常に精力的に検討を進めてい

　　ただきました。計画の骨格も決まり、いよいよ２０２５年度からは実行段階に入ります。成果に結

　　びつけたいと考えますので、会員と関係者の皆様のご協力をお願い致します。

その中に含まれますが、今年も会員を1人でも増やすことに力を注ぎ、同時に国際競技力のレベル

アップをはかりたいと思います。

BJの会員、関係者の皆様の一層のご協力をよろしくお願い致します。



**会長　來田 享子**

BJ会員のみなさま、明けましておめでとうございます。

　 昨年は、猛暑、豪雨、土砂災害が頻発し「異常気象」という言葉を頻

繁に耳にしました。あまりの暑さに夏のプレーを控えたボウラーも多かっ

たのではないでしょうか。昨年の年頭ご挨拶を執筆したときには、元旦

に能登半島地震が起きることなど予想もしていませんでした。同地は豪雨

により再び被災し、復興が遅れる中、新年を迎える気持ちにはなれない人々がたくさんいらっし

ゃることに心が痛みます。心よりお見舞いを申し上げるとともに、ボウルズを愛する私たちは同

地が置かれた状況を忘れず、何かできることがあれば取り組んでいかなければ、と思います。

ここ数年、スポーツをめぐり盛んに議論されているのは、運動部活動の地域移行問題です。

運動部活動は、学校で課外活動として行われてきた教育活動の一環です。そうした教育的な意義

が失われることへの懸念から、最近では「運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動移行」

という表現が使われるようになっています。指導者やスポーツをする環境に地域格差があり、実

現の方向性が見えないとの声もきかれます。

昨年もこの話題に触れたとおり、ボウルズは共生社会をめざす時代に最適なスポーツのひとつ

です。実際、クラブでは、障がいの有無や性別、年齢にかかわらずメンバーがボウルズを楽しん

でいます。一方、多くの伝統的な競技、とりわけオリンピックやパラリンピック等に採用されて

いる競技では、エリート競技とレクリエーショナルな競技との融合に苦戦しています。こうした

競技を地域で運動部活動あるいはクラブとして展開する場合、競技会での勝利をめざすクラブが

多くなれば、自分らしく楽しみたい子どもたちがスポーツから離れていってしまう可能性もあり

ます。

これまでBJではあまり議論されてきませんでしたが、ローンボウルズグリーンがある地域で学

校の運動部活動を受入れ、世代を超えてスポーツを楽しむ経験を子どもたちに提供することも、

普及戦略のひとつの方法になるかもしれません。大会を開催するだけでなく、小・中学校にボウ

ルズ体験会の案内をするなどはできないのかなあ…、そんなことを考えたりしています。

ボウラーは、場面に応じ、個性を活かした戦略をあれこれ考えるのが得意です。それができな

ければボウルズは楽しめないと言っても過言ではありません。そうしたボウラーの得意を日常生

活にも、普及策にも活かせるように。そんな1年になることを願っています。



**事務局長　藤川 辰美**

BJ会員の皆様，新年あけましておめでとうございます。

今年も、微力ながらBJ活動の裏方として支えている事務局へのご理解

とご協力をよろしくお願いいたします。

さて昨年はプロジェクトチームによる新5ヵ年(2025-2029年度)計画が策定され、年末の12月１

日の第３回定例理事会で大筋が承認されました。2025年度から早速に実行に入ることになりますの

で、その概要をプロジェクトチームのレポート資料から抜粋してご報告させていただくことで新年のご挨拶に代えさせていただきます。

　BJはNPO法人ですので、その活動目的は「定款」の第３条に「この法人は、子どもから高齢者ま

で幅広い年齢層並びに障害のある人達に対して、健康増進とコミュニヶーションを図る生涯スポー

ツとしてのローンボウルズの普及振興事業を行う。もって健全な地域社会作りに貢献することを目

的とする。」と定めています。

しかし、近年の会員の高齢化と若い人の入会が少ないことによる人材不足から事業活動の衰退傾向が見られるようになっており、これを抜本的に改善するための方策として練られたのが以下に掲載する新5ヵ年計画の内容です。

**（１）新しく「ミッション、ビジョン、バリュー」を次のように定めました。**

**ミッション（BJが果たすべき使命、存在意義）：**

　　　　生涯スポーツであるローンボウルズを日本国内に普及させることで、人々の健康増進と豊かな

　　　 社会生活に寄与すると共に、国際親善・交流を促進する。

**ビジョン（BJが実現を目指す、将来のありたい姿）：**

　　　　ローンボウルズを誰でも気軽にプレイできるようにし、ローンボウルズを楽しむプレーヤー、そして見て楽しむファンを増やすこと。

**バリュー（BJが大切にする価値観）：**

 •　Grow(成長する)　　お互いに切磋琢磨し、競技を通じて人間性を高める。

　　 •　Respect(尊重する)　いかなるﾊﾗｽﾒﾝﾄも排除し、全ての会員ならびにその意見を尊重する。

 •　Enjoy(楽しむ)　 年令・性別・人種・経験に関係なくローンボウルズを楽しむ。

 •　Challenge(挑戦する)　過去に捉われない独創的なアイデアや新たなチャレンジを推奨し、成功しなかったとしてもその精神を賞賛する。

**（２）具体的な解決策を次の６つのテーマに分類して、その目標値を次のように定めました。**

|  |  |
| --- | --- |
| 解決策テーマ区分 | 中 長 期 目 標 |
| 1. LBを楽しむ

ようにする | •　会員のメリットを増やし、会員数を1.5倍にする•　ローンボウルズを身近に楽しむ機会を増やす |
| 1. LBを学ぶ

ようにする | •　ローンボウルズを学ぶための教材（冊子、書籍、動画など）を作る |
| 1. 財源・人材を

確保する | •　会費見直しプロジェクトを立ち上げる•　各種助成金・寄付金の獲得をめざす |
| 1. 組織・風土を

刷新する | •　ガバナンスを徹底し、組織活性化・若返りを図る* 互いにリスペクトし合い、褒める文化を根付かせる

•　ルール・マナーを守り、気持ちよくプレーできる組織にする |
| 1. 情報を広く

発信する | •　ホームページのコンテンツを拡充し、タイムリーな発信活動を行う•　ソシアルメディア･地方紙を使い、幅広い層への情報発信を増やす |
| 1. 競技力を

高める | •　テキストや動画等を作成し自主的に技術力向上を得られる環境を整える* ゲームアプリの活用を促し、ローンボウルズについて学べる機会を作る

•　実技や座学を取り入れた競技力向上講習会を開催する* 国内外での合宿を開催し、個人とチームの競技力を向上させる
 |

具体的な実施項目まで検討されていますがスペース制約もありここでは省略し、早速に2025年度の

行事実施計画などにそれらが盛り込まれてきます。実施事項の内容によって、会員のおひとりおひとり、

あるいはクラブ会長様、あるいは地区ローンボウルズ協会長様にご協力をお願いすることが多々あるこ

とと思いますので、今後よろしくお願いいたします。

一般情報など

（１）2024年ローンボウルズ世界ランキングに日本の女子選手がランクイン

このたびWorld Bowlsが発表した2024年度ローンボウルズ世界ランキングに

次の５選手がランクインしていました。

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（所属） | 世界ランキング（位） |
| 津山元子（YC＆AC）                髙山紗生（東京LBC）               小林麻衣子（東京LBC）             合田洋子（学園ワイズ）              松岡　緑（オーストララリアクラブ）　 | 205205205225368 |

津山、髙山、小林の３選手は2024年3月タイでのアジア大会でトリプルズ、フォアーズでの銅メダル獲得,合田選手は同じく3月タイでのアジア大会でフォアーズでの銅メダル獲得,

松岡選手は６月の全豪オープンのフォアーズでのメダル獲得のポイント獲得によりランクインしたものです。

この世界ランキング制度はワールドボウルズが2024年から開始したもので、世界の主要な国際選手権大会での成績に応じて世界中からの参加選手にポイントを付与し、１年間の累積記録をまとめたものを１位から500位まで発表したものです。

まずは世界500位までに入った５選手に祝意を表しましょう。

2025年は障がい者大会についても、このランキング制度を発足させるとのことです。

2024年12月の行事、活動などの結果

（１）2024年度第3回BJ定例理事会の開催

 開催日時： 2024年12月1日（日）13時から15時30分まで

開催場所： ZOOMによるリモート会議方式

出欠状況：出席者----理事14名、オブザーバー４名

　　　　　委任状提出者---理事４名

　　　　　欠席者---理事7名

議題：１．個人情報保護規程（案）及び役員候補者選考委員会規程（改訂案）の審議・承認

２．次期役員候補者選考委員の指名・承認

３．本年度の会計中間報告（会計より報告）

４．本年度事業計画の進捗状況中間報告（総務部より報告）

　　　　以上４件については、賛成多数にて原案が承認・可決された。

５．次期５か年計画案の報告（プロジェクトチームより報告）

　　　　プロジェクトチームから、２月以降本日に至るまでの検討結果がパワーポイン

トで報告された。今後の進め方については、下表のとおり専門部に引き継いで

実行段階に進めることに決定した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 計画項目 | 実行段階担当部門 | 引継ぎ会議日程 |
| 1. LBを楽しむ計画
2. LBを学ぶ計画
 | 次世代開発部障がい者LB部 | 12月19日（木）20時からzoomにて |
| 1. 財源・人材を確保する計画
2. 組織・風土を刷新する計画
 | 総務部 | 12月28日(土）20時からzoomにて |
| 1. 情報を広く発信する計画
 | 広報部 | 1月中に日を決めて打合せ |
| 1. 競技力を高める
 | 国際部　技術・競技部 | 　　同上 |

６．その他の情報共有事項の報告

（２）日本レクリエーション協会加盟団体代表者会議に出席

　　　　主催：（公財）日本レクリエーション協会

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）

日時：12月3日（火）13:00～19:10

主な議題：来年度事業計画など

出席者：松原、吉中両副理事長

（３）(独法）日本スポーツ振興センターによる会計監査の実施

場所：zoomによるリモート会議

日時：12月20日（金）13:00～14:00

監査対象事業：2023年８月世界選手権大会（オーストラリア・ゴールドコースト）ヘ

　　　　　　　障がい者選手を派遣した事業について

出席者：先方からは日本スポーツ振興センターから支援第一課 福庭主任、中西係員、

　　　　　　　　　日本パラリンピック委員会 宮部係員、会計事務所から１名の４名が出席

　　　　BJからは児島理事長、澤田障がい者LB部副部長、森総務部副部長の３名が出席

内容：事前に、当該事業の会計書類のみならずＢＪ全体の会計書類や役員組織などの膨大な

　　　資料の提出を求められ、当日はそれらに関する保管・管理状況を含めて詳細を質問された。理事は個別事業における日当、謝金は受け取ってはならない、謝金を受給された会員はその年度は寄付をしてはいけない等についてもチェックされていた。いずれも過失はない事が確認されて監査は無事に終了した。書類管理の重要性が再認識された。

（４）2024年度インドア・シングルス＆ミックスペアーズ・ジュニア世界選手権大会に出場

　　　　主催：World Bowls

　　　　主管：香港ローンボウルズ連盟

場所：香港

日時：12月2日（月）～8日（日）までの7日間

競技種目：男女シングルスおよびミックスペアーズ

　　　　　一人４球×７エンド×２セットおよびタイブレーク

出場選手：長本祐太（LB高知UC）、島 瑚々奈（LC京都）

　　　　結果：シングルス種目　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Δ＝総獲得セット数

|  |  |
| --- | --- |
| 予選順位 | 男子(合計21ｹ国が参加)のセクション2の成績結果 |
| 国名 | 成績 | 長本選手の対戦成績 |
| 1位 | 香港 | 6勝0敗 | 第１ｾｯﾄ0:16, 第2ｾｯﾄ0:12で敗戦 |
| 2位 | マレーシア | 5勝1敗 | 第１ｾｯﾄ2:12, 第2ｾｯﾄ2:10で敗戦 |
| 3位 | ウエールズ | 3勝3敗 | 第１ｾｯﾄ2:17, 第2ｾｯﾄ4:5で敗戦 |
| 4位 | 米国 | 2勝4敗、Δ＝9 | 第１ｾｯﾄ5:12, 第2ｾｯﾄ4:5で敗戦 |
| 5位 | ﾉｰﾌｫｰｸｱｲﾗﾝﾄﾞ | 2勝4敗、Δ＝5 | 第１ｾｯﾄ3:9, 第2ｾｯﾄ3:9で敗戦 |
| 6位 | マカオ | 2勝4敗、Δ＝2 | **第１ｾｯﾄ7:7, 第2ｾｯﾄ9:4で勝利** |
| 7位 | 日本 | 1勝5敗 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 予選順位 | 女子(合計21ｹ国が参加)のセクション2の成績結果 |
| 国名 | 成績 | 島選手の対戦成績 |
| 1位 | カナダ | 5勝1敗 | 第１ｾｯﾄ5:4, 第2ｾｯﾄ3:11,ﾀｲﾌﾞﾚｰｸﾄ0:6で敗戦 |
| 2位 | フィリッピン | 4勝2敗、Δ＝8 | 第１ｾｯﾄ1:14, 第2ｾｯﾄ2:10で敗戦 |
| 3位 | ガーンジー | 4勝2敗、Δ＝6 | 第１ｾｯﾄ5:5, 第2ｾｯﾄ5:9で敗戦 |
| 4位 | 香港 | 3勝3敗、Δ＝5 | 第１ｾｯﾄ2:15, 第2ｾｯﾄ3:9で敗戦 |
| 5位 | 南アフリカ | 3勝3敗、Δ＝4 | 第１ｾｯﾄ5:14, 第2ｾｯﾄ8:5, ﾀｲﾌﾞﾚｰｸﾄ1:5で敗戦 |
| 6位 | マレーシア | 2勝4敗 | 第１ｾｯﾄ2:16, 第2ｾｯﾄ3:5で敗戦 |
| 7位 | 日本 | 0勝6敗 |  |

結果：ミックスペアーズ種目

|  |  |
| --- | --- |
| 予選順位 | (合計15ｹ国が参加)のセクション2の成績結果 |
| 国名 | 成績 | 日本チームの対戦成績 |
| 1位 | オーストラリア | 4勝0敗 | 第１ｾｯﾄ6:10, 第2ｾｯﾄ6:11で敗戦 |
| 2位 | カナダ | 3勝1敗 | 第１ｾｯﾄ5:4, 第2ｾｯﾄ6:11, ﾀｲﾌﾞﾚｰｸﾄ1:4で敗戦 |
| 3位 | シンガポール | 2勝2敗 | 第１ｾｯﾄ4:15, 第2ｾｯﾄ1:15で敗戦 |
| 4位 | ガーンジー | 1勝3敗 | 第１ｾｯﾄ6:10, 第2ｾｯﾄ3:9で敗戦 |
| 5位 | 日本 | 0勝4敗 |  |

（５）男女フリーフォアーズ日本選手権大会

　　　　主催：BJ 技術・競技部

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：12月7日（土）、8日（日）9時～17時

競技種目：男女フリーフォアーズ種目

参加チーム数：各地区予選通過チームなど　８チーム

（関東地区３チーム、関西地区４チーム、前年チャンピオン１チーム）

 競技方法：予選ラウンド　　８チームを４チームずつ２グループに分けて、グループ内の総当

たり戦３ゲームおよび他グループの１チームとの対戦１ゲームの合計４ゲームを戦う。一人2球×10エンド〈80分時間制限〉

　　　　　　　　　決勝トーナメント　　予選ラウンドの結果でグループ内上位２チーム（合計４チー

ム）を選び、準決勝・決勝の勝ち抜き戦により１位から４位

を決定する。一人2球×10エンド〈80分時間制限〉

　　　　結果：予選ラウンド 　　　　　　　　 Δ＝総得失点差

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | Aｸﾞﾙｰﾌﾟ | Bｸﾞﾙｰﾌﾟ |
| 選手名（所属） | 成績 | 選手名（所属） | 成績 |
| 1位 | 廣内厚士、小山裕木恵、廣内鐡也、小山 潤（LC京都） | 4勝0敗 | 松本幸雄、Lance Mitten、江村裕子、江村健一(LB東京) | 3勝1敗 |
| 2位 | 大杉正樹、山根英輝、林嘉雄、一色祥伸(神戸・村人) | 3勝1敗 | 合田洋子、合田純二、藤川辰美、森紘一（学園ﾜｲｽﾞ） | 2勝2敗 |
| 3位 | 小林麻衣子、田中希望、髙山紗生、松原敬之（東京LBC） | 2勝2敗 | 小林綾子、垣内紀子、旭 吉功、関口 溜（ALBC） | 1勝3敗Δ＝-18 |
| 4位 | 一瀬民子、小出正彦、村瀬康、依田成史（YLBC） | 0勝4敗 | Motoko Tsuyama,Hiroko KojimaLea Son,Yuko Sasaki (YC&AC) | 1勝3敗Δ＝-33 |

決勝トーナメント

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 勝者 | 　敗者 | スコア |
| 1位～4位決定戦 | 準決勝1（B2位：A1位） | 合田,合田,藤川,森 | 廣内,小山,廣内,小山 | 14：5 |
| 準決勝2（A2位：B1位） | 大杉,山根,林,一色 | 松本,Lance,江村,江村 | 14：0 |
| **優勝決定戦** | **大杉,山根,林,一色** | **合田,合田,藤川,森** | 12：4 |
| **3位決定戦** | **廣内,小山,廣内,小山** | **松本,Lance,江村,江村** | 17：0 |
| 5位～8位決定戦 | 準決勝1（A3位：B4位） | 小林,田中,髙山,松原 | Motoko,Hiroko,Lea,Yuko | 12：5 |
| 準決勝2（B3位：A4位） | 小林,垣内,旭,関口 | 一瀬,小出,村瀬,依田 | 18：4 |
| **5位決定戦** | **小林,垣内,旭,関口** | **小林,田中,髙山,松原** | 13：8 |
| **7位決定戦** | **Motoko,Hiroko,Lea,Yuko** | **一瀬,小出,村瀬,依田** | 10：8 |

（６）2024年度秋季明石市総合体育大会ローンボウルズ大会

　　　　　主催：明石市および明石体育協会

　　　　　主管：関西LB協会および明石市ローンボウルズ協会

　　　　　場所：明石公園ローンボウルズグリーン

　　　　　日時：12月10日（日）９時～17時

　　　　　競技種目：男女フリー・トリプルズ

　　　　　競技方式：一人３球×８エンド（７０分の時間制限あり）戦を勝ち抜き方式で４ゲーム実施

　　　　　参加チーム数：10チーム

　　　　　結果：　　　　　Δ＝総得失点差

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 順位 | チーム名（選手名） | 成績 |
| １位 | 学園都市ワイズ（合田洋子、南川義和、合田純二） | ４勝0敗 |
| ２位 | 明石ジュニア教室A(池田匡芳、池田佳誠、藤川辰美) | 3勝1敗, Δ＝+8 |
| ３位 | 明石ジュニア教室B（桑原千裕、長島一颯、森紘一） | 3勝1敗, Δ＝+3 |

１位チーム　　　　　　　　２位チーム　　　　　　　　　　３位チーム







（７）SVリーグ2024年度　後期大会(第5,6節)

主催：関西LB協会

主管：SVリーグ実行委員会

　　　　　村人クラブ（リーダー）、ALBC（会計）、学園ワイズ（記録）

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：12月14日（土）、28日（土）13:00～16:00(12時45分までに受付完了のこと）

 競技内容：10チームが参加し、ペアーズ戦を２ゲーム行う。

競技結果：12月28日終了時点での成績。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 | 9位 | 10位 |
| チーム名 | 学園　B　 | 兵庫車椅子A | LC京都 | 兵庫車椅子B | ﾀｯﾁｬ- ｽﾞA　  | ﾀｯﾁｬ- ｽﾞB　 | 学園　A | 村人クラブ　 | ALBC | ﾀｯﾁｬ-ｽﾞC　 |
| 勝点 | 25 |  21 | 15 | 15 | 15 | 15 | 13 | 13 | 10 | 6 |
| 得失点差 | +53 | +8 | +18 | +10 | 0 | －4 | －7 | －10 | －10 | －58 |
| 得点合計 |  107 | 68 |  78 | 76 | 73 |  67 | 78 | 64 | 58 | 47 |

（８）Aリーグカップ2024年度大会(最終節)

主催：関西ローンボウルズ協会

主管：Ａリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：12月1日（日）13：00～16:00

結果：今年度大会全日程終了後の最終成績。

　　　今年の前期は天候不良による中止がスケジュールの半分を占めたため、

　　　表彰は前期および後期を合計した１年分でとりまとめることにしました。

　　　表彰式は来年4月の2025年度大会第1回のときに行います。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | A-1リーグ  | A-2リーグ |
| １位 | 長島俊和（ALBC） 167.0点 | 旭　吉功（ALBC） 148.0点奥田 昭（ALBC） 148.0点 |
| 2位 | 南部貞三（ゆうゆうクラブ）159.5点 | 檜垣英男（ALBC）　　　　128.0点 |
| 3位 | 宮北 茂（神戸ボウルズ） 154.0点 | 井上 隆（ALBC）　　　　 126.0点 |

平均得点上位表彰者

（但し、上記入賞者は除く。また全開催日数15日のうち7日以下参加者は除く。）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １位 | 合田洋子（学園ワイズ） | 総得点125点÷参加日数10日＝12.50 |
| 2位 | 八杉 瞳（兵庫車いす） | 総得点125.5点÷参加日数11日＝11.41 |
| 3位 | 垣内紀子（ALBC） | 総得点132点÷参加日数12日＝11.00 |

（９）Ｍリーグ2024年度　後期大会（第5,6節)

主催：関西LB協会主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：12月11日（水）、25日（水）13:00～16:00（12時45分までに受付完了のこと）

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、

フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

競技結果：12月25日終了時点での成績（出席率 70%　以上が対象）。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 順位 | 氏　名 | 平均ﾎﾟｲﾝﾄ | 合計ﾎﾟｲﾝﾄ | 試合数 |
| １位 | 林 嘉雄（村人クラブ) | 7.200 | 72.0 | 10 |
| 2位 | 坂本 紘一（神戸タッチャーズ) | 6.222 | 56.0 |  9 |
| 3位 | 横井 幸雄（神戸タッチャーズ) | 5.800 | 58.0 | 10 |

（１０）明石公園ローンボウルズグリーン用の人工芝の性能テストを実施

　　　　　兵庫県からの依頼により、明石公園グリーン改修工事で採用予定の人工芝の「ペースオブグ

リーン」テストをメーカー工場に出かけて実施してきた。

 　　　　　実施日時： 2025年1月18日（火）14:30～15:00

 　 実施場所：大阪府岸和田市　泉州敷物KK岸和田工場

　　　　 　テスト実施者：森 紘一（学園ワイズ）、長島和俊、関口 溜（ALBC）

 　テスト結果：重いボウル（サイズ4 Classic２）および軽いボウル（サイズ2 Dreamline XG）

 の２種類について、フォアハンドの場合とバックハンドの場合とを計測し、

　　　　　　　　　　合計16投球した結果はすべての場合で27m距離を最短12.6秒から最長14.0秒

の範囲内で転走しており、合格であった（世界基準は10秒から18秒）。

1. 第30回のじぎく杯室内ローンボウルズ大会

　　　　　主催：兵庫県障がい者ローンボウルズ連盟

　　　　　主管：兵庫車椅子ローンボウルズクラブ

 協力：兵庫県立障がい者スポーツ交流館

　　　　　場所：兵庫県立総合リハビリテーションセンター内 県立障がい者スポーツ交流館

　　　　　日時：令和6年12月24日（火）9:00～17:00

 競技方法：トリプルズ戦（１人3球X８エンド50分タイム制）

　　　　　　　　　　6チーム 総当たり戦で5試合実施

　　　　　チーム編成：参加者により抽選で決定

　　競技結果 　　　 勝ち：3P 分け：1P 敗け：0P

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 順位 | 選　手　名（所属クラブ） | 　成　績 |
| １位 | 岸本文之、八杉瞳、前林典子（神戸ボウルズ） | 4勝1敗（勝ち点：12) 得失点差＋19 |
| ２位 | 松本道徳、郭善芳、藤川辰美（学園ワイズ） | 3勝2敗（勝ち点：9） 得失点差 -2 |
| ３位 | 小川和美、立花力、児島久雄 | 2勝2敗1分け（勝ち点：7) 得失点差＋5 |

　　　　　　＊選手名に所属がない方：兵庫車椅子ローンボウルズ 所属

2025年1月の計画、予定

（１）2024年度第34回BJ理事連絡会を開催

 開催日時： 2025年1月18日（土）20時から21時10分まで

開催場所： ZOOMによるリモート会議方式

出席者：2023/2024年度理事会メンバー

議題：直近の情報共有事項の報告

1. 2025年9月13日（土）～15日（月）神戸しあわせの村で開催予定の

　第１回ジャパンカップ国際大会（これまでのジャパンオープン国際大会の

　改訂版）計画について

1. その他

（２）SVリーグ2024年度　後期大会(第7,8節)

主催：関西LB協会

主管：SVリーグ実行委員会　村人クラブ（リーダー）、ALBC（会計）、学園ワイズ（記録）

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：1月4日（土）、18日（土）13:00～16:00(12時45分までに受付完了のこと）

 競技内容：10チームが参加し、ペアーズ戦を２ゲーム行う。

（３）Ｍリーグ2024年度　後期大会（第7,8節)

主催：関西LB協会主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：1月8日（水）、25日（土）13:00～16:00（12時45分までに受付完了のこと）

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、

会員からの投稿

**２０２４年Champions of Championsの報告**

**２０２４年１２月１３日　　　松岡緑 (ｵｰｽﾄﾗﾘｱｸﾗﾌﾞ)**

１１月２５日から３０日まで、ニュージーランド、オークランド、ブラウンズベイボウリングクラブで行われた世界チャンピオン大会に参加した。

女子の出場国は２６カ国で予選は３セクション（９、９、８カ国）、決勝ラウンド進出は各セクション２位までと３位の中から上位２カ国となった。私のセクションの組み合わせは、下記の８カ国で強豪が集まりかなり厳しい試合を予想していた。

USA、マレーシア、南アフリカ、イングランド、シンガポール、ナミビア、マルタ、日本

現チャンピオンのアメリカ、世界２位のマレーシアを含め私にとっては全力でぶつかっていかなければならない相手達であった。

会場には３つのグリーンがあり、それぞれが１秒くらいのペースの違いがある程度でよく整備されていた。ただし天候や時間によって差があり、実際にプレイした時は普通に１７−１８秒と超早いグリーンで、午後になって風が吹くとさらに速くなり、また風の影響を強く受け、デリバリーのスタイルを若干変えて臨まないとドローに支障をきたす状態であった。

大会３日前にはブラウンズベイで練習を始めたが、すでにいくつかの国は前もって到着していてUSA などはかなり以前から練習をはじめていた。また直前にはオセアニアチャレンジ大会があり、オーストラリア・ニュージーランドをはじめとするオセニアの国々はニュージーランドのグリーンで十分試合な経験を経てからチャンピオン大会に参加していた。

今回の試合は若干昨年度と違って７エンド、２セット、タイブレーク３エンドと短い試合になっており、１ショットを争い結果がどちらに転んでもおかしくない場面が多く見られた。

今回はリンクサイドコーチ・マネージャーとして地元のGraham Dorreenさん、黒原恵子さんに入ってもらい、記録、ショットセレクションの相談を行った。レポート内に両名からのコメントも付記する。

結果は２勝７敗と予選通過ならず（成績詳細は先月ブリテンで掲載ずみ）となった。

予選試合の総括：私の試合は３パターンに分けられる。

１）僅差で勝った試合；マレーシア、イングランド

２−１）僅差でせっており、最後相手に取られた試合：USA
２−２）スタートが遅く、２セット目で僅差まで迫ったものの後一歩及ばなかった試合：ナミビア

３）ドローが決まらず苦労し負けた試合；シンガポール、南アフリカ、マルタ

勝因

勝った試合を見直してみると勝因はまずドローが安定していること。さらにはコンバージョンがうまくいったこと。ヘッドも投球ごとに変わって最後の１球までそのエンドはどちらが勝つかはなかなかわからない状況であった。

今回の試合中に黒原恵子さんが試合のスコアを投球ごとに記録してくれて、どのように試合運びを行ったか、どこでショットを取れたかなど、あとで見直してみるのにとても役に立った。これは、コーチングにはかなり役に立つと思うので、最初の部分だけを下記に記す。

マレーシア戦の第一試合、（V）はショットになったもの。マレーシア戦はまず相手のドロー力がかなり良く最初からきっちりジャックに寄せてきていた。１セット目は彼女のドローに押されたものの、２セット目はこちらもジャックに寄せ、相手がそれ以上にジャックに寄せるあるいはお互いにオンショットでコンバージョンする試合運びとなった。



敗因

1. スタートが遅いー＞シンガポール、南アフリカ、マルタ戦

グリーンのスピードに慣れるのに苦労している間に数エンド経っているので、その間に既に１セット目が終わっている。２セット目を取り返すのは極めて難しい。南アフリカは、２セット目に無理をしてかなりのショットを相手に与えてしまっている。

毎回異なるグリーン（３面を毎回変わる）のスピードに慣れるのに時間がかかっていてはあっという間に相手に点を取られてしまい挽回する時間がなくなっていた。グリーンの１秒の差はショットにすると２M位違っていて、そのウエイトコントロールに即慣れるか数エンドかかるかが勝敗を左右した。

僅差の試合

1. コンバージョンショット（ドライブなど）で相手にショットを奪われた―＞USA,ナミビア

両者１歩も引かずとったり取られたりを繰り返し、最終的にこちらのショットが入っていても相手に取られて負けが決まった。USAでは１セットを引き分けに持ち込み２セット目もせっていたが、ゲームチェンジャーエンドを逃したことが敗因。ナミビア戦はこちらのヘッドのできはかなりよかったが、相手のヘッドに向かってくるポジティブショットによりヘッドが毎回変わり、最後の１球をどちらが決めるかでエンドの勝ちが決まるような試合で、最終的には相手のコンバージョン率が高かったことが敗因か。

今後の課題

* セットゲームのため刻々と変わるグリーンのスピードにいかに早く慣れるかで、勝敗が別れる。３日前からBrowns Bayで練習を開始したが、スピードの違うグリーンに慣れるにはもう少し早めに入って慣れておく必要があった。
* 極端に速くてワイドなグリーンではプレイするサイドを変えるリスクはかなり大きい。ロールアップの２往復でどちらのサイドでプレイするかを見極め、ハンドを変えないでプレイする方が成功率は高いと思われた。
* スタートからポジティブショットを心がけ、果敢に攻め込む（リスクもあるけれど、ゲームを制すにはリスクも必要）

**コーチ（Graham Dorreen）からのコメント：**

Midori represented Bowls Japan at the World Champion  of Champions  Singles Championships in NZ in November
Midori represented her country at a very high level in terms of ability and sportsmanship and was unlucky not to have had more success
Midori arrived a few days early to give herself time to acclimatize and get the feel of a much faster surface  than what she was used to , which ran at 17-18 seconds
In hindsight Midori needed a few more days to prepare as the adjustment was not easy

Midori’s performance against the English player who got a bronze medal was absolutely top class  and Midori  won the game  by  consistently drawing effective bowls on each end
Midori’s game management was very good in that game and the English player got very frustrated , reverting to driving on many occasions

Midori played very well in the first game against the world number two ranked player from Malaysia , beating her in a tie break

In looking back on these two games it shows Midori was  playing at a very high level in terms of international play and she showed she could compete and beat the best

Against South Africa and Namibia, both opponents drew better and Midori struggled with weight and in a short  format game it is difficult to get back into the game if you have dropped the first three ends

Against USA both players played great bowls with lots of touchers , and Midori lost a very close game to the eventual silver medalist

Midori’s game vs Singapore was played on a two paced green and the Singapore player adjusted better

Without question Midori can beat anyone on any given day and she showed that
However to draw consistently game after game on a quick green probably requires more preparation time as it requires a slower delivery and execution
It is important too to play one hand where possible and eliminate the searching for line when  changing hands
The players who made post section were the most consistent draw bowlers

I loved being involved as coach together with Keiko  who was also  an excellent manager and very good statistician
Keiko has a very complete record of all games that she will send to Midori
Thankyou for the opportunity
The difference was sometimes so small between winning and losing and if a couple of shots had gone Midori’s way we would have seen her competing for a medal
Cheers Graham

要約すれば、イギリス、マレーシア相手に勝った試合にでは高いレベルでの試合が行われトップクラスの試合だった。USAにも一歩も引かず後一歩で勝てる試合ではあった。一方負けた試合ではグリーンのスピードに速やかに合わせられず苦労した。

７エンド×2セットの短い試合では結果がどちらに転んでも不思議ではなく、そんな中で勝ち進んだプレイヤーは安定してプレイしていた。またNZのようなとても早いグリーンではかなり前からの準備が必要である。

**マネージャー（黒原恵子）からのコメント：**

リンクサイドで投球１球ごとの結果を全て記録したが、どの試合も途中で何度もショットをとっている場面があった。ドローが良い時は最後までショットが残って得点になり、相手のランニングショットやコンバージョンが効果的だった時は残念な結果に終わった。勝った試合はドロー、コンバージョンともうまくいって見応えのある試合であった。また負けた試合の中でもナミビア戦はヘッドのできは日本が良かったが相手のランニングショットが正確で何度もヘッドを崩されて点数が取れなかった。USAも接戦で１セット目を引き分けに持ち込み２セット目に勝負がかかっていたが惜しくも相手に取られるなど、極めて紙一重の試合であった。

全体的にはグリーンのスピードはかなり速く３面ともスピードが違っていたことはNZ以外の国のプレイヤーにとっては相当難しいものであったと思う。

松岡緑選手は３日前からBrowns Bayでの練習をおこない、速さと風に次第に慣れてきてはいた。Conditionをつかむ努力をしたものの、ウエイトコントロールには苦労したことが結果に現れてしまった。試合結果はとても良い試合と苦労した試合に分けられるがグリーンに負けた試合があり残念だった。今回はコーチのGraham Dorreenと一緒に日本選手のサポートにあたったが楽しい日々であった。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（以上）